

平成29年度シラバス

学番40 新潟県立栃尾高等学校

教科名	公民	科目名	現代社会	単位数	2
科目の性質	必修		学年(学級)	3学年	
使用教科書	最新現代社会(実教出版)		副教材等		

1 学習目標

1. 現代社会と人間について、広い視野に立って理解を深める
2. 現代社会の基本的な問題について、主体的に考え公正に判断する力や、人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養う。
3. 自らの個性を発揮し、文化・福祉の向上、発展に貢献する能力と、平和で民主的な社会生活の実現、推進に向けて主体的に参加・協力する態度を育てる。

2 指導の重点

- ①政治・経済・倫理・国際社会の各分野における基礎的・基本的な知識を身につける。継続的にノートや学習プリントを提出させる。
- ②個性の伸長を図ることを重視するため、自らの興味・関心に基づいて、いくつかの課題から各自で選択して学習する項目を設ける。
- ③新聞記事や視聴覚教材などの利用により、身近に現代社会をとらえることができるよう授業の構成に配慮する。

3 学習計画

月	学習活動(指導内容)	学習のねらい	時間	評価方法
4	1部 第1章地球環境問題 第2章資源エネルギー問題 第3章生命科学と情報技術の課題	・地球環境問題の現状について把握させるとともに、これらの問題は自分たちにとって身近な問題であることに気づかせる。 ・資源・エネルギーの利用において国家間の利害が衝突している現状を認識させる。 ・人類の福祉という観点から、科学技術はどのように利用されるべきかを考察させる。 ・情報化社会における課題を踏まえ、情報化社会に生きるためのモラルやルールについて、どのような規制や法整備によって調整をおこなっていくべきかを考えさせる。	8	授業態度 定期考 査 レポ ー ト

5	2部 1, 第1章青年期と自己の形成 第2章人間としてよく生きる 第3章日本人としての自覚	・青年期の意義と自己形成の課題について考察させ、青年としての生き方を自覚させる。 ・倫理や進路指導と関連させる。 ・先哲の思想や宗教の意義に触れ、人間としていかに生きていくべきかを考察させる。 ・現代社会で「正義」「公正」「幸福」はいかにすれば達成されるのか、さまざまな思想家の主張を比較・考察させる。	8	授業態度 定期考 査 レポ ー ト
6 7 9 10	2, 第1章現代国家と民主政治 第2章日本国憲法の基本的性格 第3章日本の政治機構と政治参加	・世界の主な国の政治体制を比較しながら理解させるとともに望ましい政治や主権者としての参政の在り方について考えさせる。 ・日本国憲法の基本原則と政治機構、民主政治における世論形成と政治参加の意義などを理解させ、民主政治において主体的に生きる人間としての在り方生き方を考えさせる。 ・議会制民主主義と権力分立について、その意義や多数決の原理と運用方法などについて理解させるとともに、民主政治の権力分立の意義を法の支配や基本的人権の保障と関連づけて理解を深めさせる。 ・民主政治のもとでは、国家の行為に対して最終的には国民自らが責任をもつことになるということを理解させる。 ・新聞などを教材として、身近な話題を示す。 ・政治・経済、日本史や世界史の学習内容と関連させる。	20	授業態度 定期考 査 レポ ー ト
10 11 12	3, 第1章現代の経済社会 第2章日本経済の特質と国民生活	・激動する経済社会について、様々な角度から理解を深めさせ、個人や企業の経済活動における社会的責任について考察させる。 ・金融の意義や役割を理解させるとともに、金融政策の目的と手段について理解させる。 ・新聞記事を題材にし、現実の動きと関連させて説明する。 ・政治・経済の学習内容と関連させる。 ・都市型・生活型公害や身近な環境汚染の事例をもとに、その解決には法整備だけではなく、個人や企業にも社会的な責任が課されていることに気づかせる。 ・近年の雇用や労働の動向を、経済社会の変化や国民の勤労権の確保の観点から考察させる。 ・人間として生活が保障される社会保障制度の意義や役割を理解させるとともに、医療・介護・年金などの保険制度にみられる現状と課題を理解させる。	20	授業態度 定期考 査 レポ ー ト

1	4, 第 1 章国際政治の 動向 第 2 章国際経済の 動向と国際協力 第 3 部共に生きる 社会をめざして	・主権や国際政治、国際経済などの諸問題を理解させ、国際社会における日本の役割や日本人の生き方を考えさせる。 ・国際政治は国連を中心として、国際経済は貿易や為替を中心として身近な問題として考えさせる。 ・国際経済は、輸入品の価格や海外旅行など身近な例を挙げて解説する。 ・情報通信技術の発達や世界的な規制緩和により、経済のグローバル化が展開していることに注目させるとともに、地域的経済統合が進展する背景や影響について考察させる。 ・経済協力や国際的な援助の在り方について、国家間の方策だけでなく、NGOやNPOなども重要な主体となっていることを、その理由とともに考察させる。 ・持続可能な社会の形成に参画する個人としての自覚を促すとともに、多文化共生社会を実現させるために必要な個人の在り方生き方について考察を深めさせる。	1 4	授業態度 定期考 査 レポー ト
---	--	---	-----	------------------------------

4 課題・提出物等

- ・視聴覚教材を用いた授業時の感想文提出や小テストの実施
- ・作業プリントの提出（授業内で随時実施する）
- ・夏季休業中・冬季休業中の課題については別途指示

5 評価規準と評価方法

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用して学び方を身に付けている。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方とに関わる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。

以上の観点を踏まえ、

- ・ 授業の様子（授業態度・発問評価・学習活動への取り組みなど）
- ・ 定期考査
- ・ 提出物の状況（感想文・主題学習レポート・休業中の課題など）

などから総合的に判断します

6 担当者からの一言

現代社会の課題を身近な問題としてとらえることができるよう授業を進めます。また、世界に広く目を向け、国際社会の平和を実現するための方策について考察し、私たちに今何ができるのかを問いながら、授業を進めます。